マルコの福音書４章 21-34 節　神の国を築く
先週からマルコの福音書の第４章を読み始め、この章に登場する、イエスが語られた４つのたとえ話のうち、最初の１つを見ました。今日は、４章 21 節から 34 節にある、残り３つのたとえ話を見ていきましょう。この３つは神の国という観点を通して、１つ目のたとえ話とつながっています。先週、１つめのたとえ話から学んだ真理は、イエスに従う者はイエスに耳を傾ける、ということでした。１つめのたとえ話における種とは福音のことでしたが、イエスとその使徒たちが宣べ伝える福音のメッセージを、すべての人が本当に耳を傾けて聴くわけではありません。今日はこれを残り３つのたとえ話とつなげ、私たちも、当時の使徒たちと同じように、種を蒔き、神の国を築くために召されているということを理解したいと思います。４つのたとえ話を結び付けているのは、神の国と、神の国における私たちの役割という観点です。そしてこの点が、イエスの弟子として召されている私たちとって、いま、重要なことなのです。**マルコの福音書１章 15 節**に、イエスのメッセージとして最初に書かれている言葉は、**「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」**でした。そして１つめのたとえ話において、イエスは弟子たちに、**４章 11 節**で**「あなたがたには神の国の奥義が与えられていますが、外の人たちには、すべてがたとえで語られるのです」**と言っています。福音が宣べ伝えられ広まることにより、ある形で神の国が築かれていくという点が、イエスのメッセージの肝心な部分です。そして、イエス・キリストに従う私たちは、神の国が築かれていく中で、果たすべき役割があります。今日見ていく４章の残り３つのたとえ話は、最初の１つを基に、神の国と、神の国が築かれる中での私たちの役割をより詳しく説明するものです。この点に注目していきたいと思います。

まず、21 節から 25 節まで、イエスが語られた２つ目のたとえ話を読みましょう。[21] **イエスはまた彼らに言われた。「明かりを持って来るのは、升の下や寝台の下に置くためでしょうか。燭台の上に置くためではありませんか。** [22] **隠れているもので、あらわにされないものはなく、秘められたもので、明らかにされないものはありません。** [23] **聞く耳があるなら、聞きなさい。」** [24] **また彼らに言われた。「聞いていることに注意しなさい。あなたがたは、自分が量るその秤で自分にも量り与えられ、その上に増し加えられます。** [25] **持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っているものまで取り上げられてしまうからです。」**今日の説教を準備するためにこの聖書箇所を分析しているとき、それまで気づかなかった点が見えてきました。ここで明かりとは、イエスのことなのです。私はいつも、明かりとは、隠してはならない福音のメッセージを指すと考えていました。しかし、これはイエスご自身のことなのです。イエスは、この世に「（持って）**来られた**」方です。21 節に使われている語句は限定的な表現で、英語では、不特定の明かりの中のどれか、という意味になっていますが、実は原文では、定冠詞がついており、ある特定のひとつに限られる明かり、という意味になります。ですから、これは明らかにイエスのことを指しています。さらに大事なことは、明かり、つまりイエスが世に来られたというこの簡潔なたとえ話が、**神の国の始まり**を示しているという点です。ただし、神の国は永遠ですから、その意味では始まりもありません。神は宇宙における究極的な主権者であられます。万物は、創造主である神に従います。しかし神は、永遠の栄光においてご自分を礼拝する者として造られた人々を国民とする、地上の御国というものをご計画されました。この地上の御国の完成と最終の状態は、**ヨハネの黙示録 11 章 15 節**に次のように描かれています。[15] **第七の御使いがラッパを吹いた。すると大きな声が天に起こって、こう言った。「この世の王国は、私たちの主と、そのキリストのものとなった。主は世々限りなく支配される。」**歴史上のすべては、イエス・キリストが、贖われ栄光を受けた神の民を永遠に治める、新しい天と新しい地に向かっているのです。神ご自身のかたちとして造られた、人との契約関係を通じて神の御国を広げていくこと、これが神のご計画したことであり、今でも変わりません。ところが、アダムの罪によって、私たちはその役割を果たせない状態に陥りました。しかし、神は人を罪から贖い、神の国の構築を続けるためのご計画も、既にお持ちでした。神が人に救いを与えるために結ばれた恵みの契約についての啓示は、旧約聖書から始まっています。イスラエルという民が選ばれ、彼らにおいて、神の贖いの計画が様々な形で示され、また、イスラエルにおいてイエス・キリストにつながる人間の系譜が与えられました。地上におけるイスラエルの王たちの欠陥から、義なる王の必要性が

示されました。イスラエルでのいけにえや祭司は、罪のための完全で永遠なる犠牲、そして神の基準に従いまことに聖である祭司を望まなければならないことを示しました。結局これらはいずれも、神の国を本当にこの世にもたらすものではなく、これができるお方を、指し示していたのです。ヨハネの福音書１章９節に「[9] すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。」とあるように、まことの明かりである、イエス・キリストが来ることにより、待ち望まれた神の国が本当にこの世にもたらされたのです。イエスはこれを、旧約聖書に書かれていたあらゆる予型や約束を成就し、十字架の上での死と、死者の中からの復活により、恵みの契約を確立することにより実現しました。

ここで、２つめのたとえ話が明らかにしているのは、イエスが立ち上げた御国は、宣べ伝えられなければならない、ということです。イエスがこの世にもたらした光は、人々と分かち合わなければならないのです。イエスはおそらく色々な人々が混在する聴衆に向けて語っていますが、イエスが意図していた聞き手―本当にイエスに耳を傾け、イエスの言葉に基づいて行動する者は、先週見たとおり、イエスに真に従う者、イエスの弟子たちです。彼らに対し、イエスは 24-25 節で、次のように語っています。「聞いていることに注意しなさい。あなたがたは、自分が量るその秤で自分にも量り与えられ、その上に増し加えられます。[25] 持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っているものまで取り上げられてしまうからです。」イエスは、これらのたとえ話によるメッセージを聞いて受け入れ、御国を築くことに自ら決意をもって献身する人々には、神の国についてのより大きな理解と、より大きな役割が与えられる、と言っておられるのです。しかし、もしイエスの教えの中に神の国を認めることができないなら、言い換えれば、イエスを受け入れることを拒否するなら、「持っているものまで取り上げられてしまう」のです。これは、本当の富、真に御国を築くこととは、私たちがこの地上で何をどれだけ持っているかではなく、霊的な神の国を築くために私たちが何をするか、に関わることだからです。そしてすべてに対する神の物質的な支配と統治は、霊的な神の国が築かれる結果として実現することになります。明かりとしてのイエスがもたらす光と真の栄光は、いつの日か世の全体に広がります。しかしほとんどの人にとって、このことは見えていません。イエスを受け入れていないからです。さらに深刻な場合として、多くの人がこのことを知らないのは、そもそも聞いたことがないからです。これが次のたとえ話の焦点であり、イエスは**神の国が広がる**ことについて語っています。では 26-29 節にある次のたとえ話を読みましょう。[26] またイエスは言われた。「神の国はこのようなものです。人が地に種を蒔くと、[27] 夜昼、寝たり起きたりしているうちに種は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。[28] 地はひとりでに実をならせ、初めに苗、次に穂、次に多くの実が穂にできます。[29] 実が熟すと、すぐに鎌を入れます。収穫の時が来たからです。」イエスはここで、１つめのたとえに話に登場した種を蒔く人の話に戻っています。しかし、ここでイエスが強調していることは大きく異なります。私たちは、私たち自身が種を蒔く人であると自覚すべきであるという点です。私たちは、イエスの時代の弟子たちと同じように、福音のメッセージ、つまり、種を持って遣わされていきます。神の国が地上において広がるにあたり、私たちの役割がここにあります。種を蒔くことです！ただそれだけです。私たちは福音を分かち合い、イエス・キリストの証人となることで種を蒔きます。私たちをイエスの証人として召す大宣教命令について、使徒の働きの著者ルカは、１章８節で次のように説明しています。しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」そう考えれば、とても分かりやすいことです。私たちは、自分の足で出かけていき、自分の口を開き、イエスについて人々に伝えるよう召されているのです。ここで私たちは、もし誰も応答しなかったら？もし拒絶されたら？もしああだったらこうだったらと、いろいろな疑念を抱くものです。

しかしこの種を蒔く人、この農夫には、その後のことを左右することはできず、影響を及ぼす力も何もないことに注目してください。農夫ができるのは、毎日起きて、植えた種を見て、その中のどれかが育っているかを見てみることだけです。この農夫は何もしませんが、種は育っていき

ます。この農夫は、種がなぜ育つのか、科学的なしくみも知りませんが、種は育っていきます。最初は小さな苗が出てきて、やがて茎や葉が育ち、その先に麦の実が現れます。そのとき種を蒔く人に、もうひとつ、やることが与えられます。実を収穫することです。このことはイエスについて、また、私たちが福音を宣べ伝えるにあたってイエスの証しをすることについて、何を教えているのでしょうか。ここに示されているのは、救いは私たちの役目ではない、ということです。エペソ人への手紙第 1 章に、神が既に救われる人々を選び、あらかじめ定めておられることが明確に書かれています。**エペソ人への手紙 1 章 4-5 節**に、次のようにあります。**すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。 5 神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。**救いのみわざは、神があらかじめ定めたみこころに従い、キリストにおいて成し遂げられたものです。しかし神は、福音が植え付けられ、根が張り、救いの花を咲かせる良い地となるようにあらかじめ選ばれた人々に福音のメッセージを届けるために、私たちを用いることを選んだのです。種を蒔く人は、種が水と栄養を取り込んで生長し始めるときに、その種の中で何が起こっているのかを見ることはできません。同じように、私たちも、人々とキリストについて分かち合った後、その人の心といのちの中で聖霊がどのように働くかを目で見ることはできません。しかし私たちは従順にその種を蒔き、人々にキリストについて伝え続けることができます。それが私たちの役目です。

そして、真実の方である神は、私たちが従順に蒔く種を用いて、ご自分の御国を成長させます。30-34 節で、**御国の成長**を示す最後のたとえ話を見てみましょう。**30 またイエスは言われた。「神の国はどのようにたとえたらよいでしょうか。どんなたとえで説明できるでしょうか。 31 それはからし種のようなものです。地に蒔かれるときは、地の上のどんな種よりも小さいのですが、 32 蒔かれると、生長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張って、その陰に空の鳥が巣を作れるほどになります。」 33 イエスは、このような多くのたとえをもって、彼らの聞く力に応じてみことばを話された。 34 たとえを使わずに話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちには、彼らだけがいるときに、すべてのことを解き明かされた。**このたとえ話は、種が育つという観点でひとつ前のたとえ話とつながっています。ひとつ前のたとえ話では、農夫が種を蒔いた後、実際にどのように生長したかはわからない、ということに焦点があてられていました。最後のたとえ話の焦点も同じですが、たとえとして、種を蒔くことと収穫ではなく、ごく小さなからし種と、それが生長しきったときの大きさの対比に目が向けられている点で異なっています。からし種の大きさはほとんど目に見えないくらいですが、この種から育つ木は、完全に生長すると、10 フィート（3 メートル）の高さにもなることがあります。これは低木植物の一種ですが、ほかの種類の低木に比べ高く育ちます。そして、他の木や大きな茂みと同じように、鳥などの動物にとっての隠れ場所となります。また、直射日光を嫌う植物が生育するための日陰もつくります。

このことが、神の国とどう関係しているのでしょうか。イエスの時代の神の国は、まだ種の段階にありました。イエスが使徒として世界中に福音を宣べ伝えるように命じた 12 人の弟子たちは、イエスのメッセージを受け継ぎ、それをあらゆる場所に広めることになります。彼らが伝えたのは、私たちの創造主である神が遣わした御子イエス・キリストが、私たちの罪のために死に、人という、神に栄光を帰すことができなくなった被造物が贖われるための道を用意してくださったというメッセージです。このメッセージは世界を変えました。そして教会が新しい教会を開拓していき、新しく信仰を持った人が救われ、バプテスマを受ける、この流れが歴史において繰り返されていきました。神の国が完全に実現し、世のすべて領域に広がるまで、御国は成長し続けるのです。これが実際どのように起こるかについては、いくつかの考え方があります。これらの考え方の詳細には触れませんが、ポストミレニアリズムは、歴史が神の支配に向かう道筋をたどり、最終的に教会が勝利する―神が地上の教会を用いることで神の支配が完全に実現されるという考え方です。また、特にアメリカでは、ポストミレニアリズムを支持しないながら、クリ

スチャンによる国家主義の一種で、セオノミーと呼ばれる、政治的行動を通じて神の王国が拡大されるというような考え方に向かっている教会も多くあります。今は少なくなってきていますが、神の国は完全に天にあり、その性質は霊的なものに限られ、千年王国か永遠の御国のどちらかが来るまでは、いかなる形であれこの地上には存在しないと主張する神学者も存在します。しかし真実に目を向けましょう。クリスチャンとして生きている上でのほとんどの側面で、そして聖書の歴史において、わたしたちは「既に、しかしまだ」という状態にあります。神の国の前進はイエスと共に始まり、それからイエス・キリストの教会が世界のあらゆる場所で前進するとともに、神の国も成長してきました。しかし神の国が完全に実現するのはイエスが再臨する時であり、**ピリピ人への手紙２章 10-11 節にある「イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、[11] すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰する」**ことが成就するのです。最終的には、からし種が育って木となり園の隅々を覆うように、神の国は、神の満ちあふれる栄光の中で姿を現し、地上を神の臨在で満たし、御国は物理的に確立されます。私たちはこの日を待ち望み、この日のために力を尽くしているのです。しかし、私たちは政治的な行動や、よりよい社会のための社会的活動によって、御国の確立を目指しているのではありません。私たちは、２つめのたとえ話に出てくる種を蒔く人のように、福音の種を蒔き、あとは神が御国を成長させるみわざを見る、このようにして神の国を築くために働きます。私たちはイエスに従う者として、王とその王国の使者のように遣わされ、罪を悔い改め、イエス・キリストを主であり救い主として信じ従うすべての人にとって存在する、あらゆる王よりも偉大な王と、究極の救いについて宣べ伝えていくのです。ただし、**コリント人への手紙第二４章４節に「彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。」**とあるように、これは非常に差し迫った使命です。私たちはイエスの弟子として福音の奥義を理解していますが、私たちの周りの人々は、これに対し目が閉ざされています。今日の聖書箇所の最後、**第 34 節**には、**「たとえを使わずに話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちには、彼らだけがいるときに、すべてのことを解き明かされた。」**とあることに注意しましょう。そして弟子たちは、福音と神の国について理解した真理を、自分たちのうちだけにとどめませんでした。彼らは、残りの人生のすべてを費やし、イエス・キリストが私たちの罪のために十字架で死なれ、よみがえられたことで、私たちは罪から救われ、新しい命、神の国での永遠の命が与えられるという良い知らせを伝えました。私たちは、神の国が横浜に、神奈川に、日本に、そして世界中に広がっていくために、福音の種を蒔いているでしょうか。祈りましょう。

Mark 4:21-34 Building God's kingdom

Last week as we began to look at Mark 4, we looked at the first of 4 parables in this chapter. Today we want to look at the last three parables in this chapter that span from verse 21 to verse 34. They are connected with the first parable through the idea of God's kingdom. Now last week, I pointed us to see the truth that we should take away from that parable is that the followers of Jesus listen to Jesus. The seed in that first parable that is sown is the gospel, but not everyone really hears and listens to the message of the Gospel that Jesus and his apostles are proclaiming. Today I want to connect that idea with these last three parables and see that we like the first apostles are called to sow that seed and as we will see today build the kingdom of God. This idea of God's kingdom and our role in it, is what connects all these parables together in a way that matters to our call as followers of Christ today. When we first hear the content of Jesus's message in Mark 1:15, we read that Jesus was, …saying, "The time is fulfilled, and the kingdom of God is at hand; repent and believe in the gospel." In the first parable here in chapter 4, Jesus says to his disciples in verse 11 of chapter 4, "To you has been given the secret of the kingdom of God, but for those outside everything is in parables… This message that the kingdom of God is in some way being built by the gospel going out is integral to Jesus's message. Since that is true, then we as followers of Jesus Christ have a role to play in the building of God's kingdom. This is where I want to focus as we take a look at these last 3 parables today, because they build on the first parable to explain the kingdom of God more fully to us and our role in building it.

Let's start by reading Jesus's second parable from verse 21-25. 21 And he said to them, "Is a lamp brought in to be put under a basket, or under a bed, and not on a stand? 22 For nothing is hidden except to be made manifest; nor is anything secret except to come to light. 23 If anyone has ears to hear, let him hear." 24 And he said to them, "Pay attention to what you hear: with the measure you use, it will be measured to you, and still more will be added to you. 25 For to the one who has, more will be given, and from the one who has not, even what he has will be taken away." Studying this parable in preparation for this sermon caused me to see something that I had not realized before… that the lamp here is Jesus. I think that I have always looked at the lamp as the gospel message that we are not to hide, but it is speaking of Jesus himself. He was "brought in" to this world. That wording in verse 21 is very specific, and although in the English text it says "a lamp," in the original it actually says "the" lamp, so there can only be one. This is clearly Jesus. More importantly, this simple parable of the lamp, Jesus, coming into the world shows us **the beginning of the Kingdom of God**. Now, God's kingdom in one sense is eternal, there was no beginning. He is the ultimate sovereign power in the universe. As the creator, everything is subject to him. However, he planned for an earthly kingdom that would be populated with subjects whom he created to worship him in eternal glory. The culmination and end state of that kingdom is seen in Revelation 11:15 Then the seventh angel blew his trumpet, and there were loud voices in heaven, saying, "The kingdom of the world has become the kingdom of our Lord and of his Christ, and he shall reign forever and ever." Everything in history is building to a new heaven and new earth, where Jesus Christ reigns supreme over a redeemed and glorified people of God for eternity. God intended and still intends for his kingdom to spread through the covenant relationship he has with humans as his image bearers. But, through Adam's sin, we failed in that role. But God had already formed a plan to redeem humanity from sin, to continue building his kingdom. The Old Testament began unfolding the covenant of grace that God made with man to provide salvation.

There was the election of a people, Israel, who demonstrated in many ways God's plan for redemption, and provided the human line that would lead to Jesus Christ. There were earthly kings of Israel who showed us by their imperfection, the need for a righteous king. There were sacrifices and priests that left us wanting a complete and eternal sacrifice for sin and a priest who was truly holy in the eyes of God. In the end, none of those things could truly bring in God's kingdom into this world, but they pointed to the one who could. It took the coming of Jesus Christ, the lamp, described in John 1:9 as The true light, which gives light to everyone… to truly bring this long awaited kingdom into the world. He did this by fulfilling all the types and promises of the Old Testament and firmly establishing this covenant of grace by his death on the cross and resurrection from the dead.

But what this second parable makes clear is that this kingdom that he established must be proclaimed. The light he brought into the world must be shared with others. Remember Jesus is speaking this most likely to a mixed audience, but the intended recipients, the ones who would truly listen and act on what he is saying as we learned last week, were his true followers, his disciples. To them he said in verses 24-25, "Pay attention to what you hear: with the measure you use, it will be measured to you, and still more will be added to you. [25] For to the one who has, more will be given, and from the one who has not, even what he has will be taken away." Jesus is saying that those who hear and accept the message of these parables by committing themselves to the building of this kingdom will be given even more understanding of God's kingdom and a greater role in it. But if a person fails to see the kingdom of God in what Jesus is teaching, in other words they refuse to accept Jesus, then "even what he has will be taken away." This is because true riches, true kingdom building is not about what we have here on earth, but what we do to build God's spiritual kingdom that will come to fruition in his physical rule and reign over everything. One day, the lamp of Jesus Christ, and the true glory of his light will extend over this whole world, but it is hidden to most people because they have not accepted Jesus. Worse yet, to many it is hidden because they have not heard, and that is where the next parable comes into focus as Jesus talks about **the spread of the kingdom of God**. Let's read this next parable that we see in verses 26-29. [26] And he said, "The kingdom of God is as if a man should scatter seed on the ground. [27] He sleeps and rises night and day, and the seed sprouts and grows; he knows not how. [28] The earth produces by itself, first the blade, then the ear, then the full grain in the ear. [29] But when the grain is ripe, at once he puts in the sickle, because the harvest has come." Jesus returns in this parable to his sower of the first parable who is sowing seed. But the emphasis is very different here. Again, we should see ourselves as the sower. We are sent out as the disciples are with the message or seed of the gospel. Here is our role in the growth that will occur on earth for God's kingdom – sow the seed! That's it, nothing else. We scatter seed by sharing the gospel, by being a witness for Jesus Christ. In Acts 1:8, Luke shares his version of the Great Commission that calls us to be witnesses. But you will receive power when the Holy Spirit has come upon you, and you will be my witnesses in Jerusalem and in all Judea and Samaria, and to the end of the earth. It's actually pretty simple when we look at it that way. We are called to go with our feet and open our mouth to tell people about Jesus. And to that we like to raise lots of questions, starting with, but what if nobody responds? What if they reject me? What if…what if…what if.

Notice everything after that the sower, this farmer, has no control over or power to influence. The farmer just gets up every day, looks at the seeds he planted and see if any grows. He does not do anything and those seeds grow. He does not know all the science behind why they grow; they just do. The first time he just sees a little blade of grass looking plant sticking up, then that becomes a full grown plant, and then the grain appears on the end of the plant. Then the sower gets to do one more thing, harvest the grain. What is this telling us about Jesus and about our witness we are to have for him as we proclaim the gospel? It shows us that salvation is not our job. Ephesians 1 is clear that God has already chosen and predestined those who will be saved. Ephesians 1:4-5 says, even as he chose us in him before the foundation of the world, that we should be holy and blameless before him. In love he predestined us for adoption to himself as sons through Jesus Christ, according to the purpose of his will… The work of salvation is accomplished in Christ according to the foreordained will of God. But God chooses to use us to bring that message of the gospel to those he has already chosen to be the fertile soil where the gospel is planted and it will take root and blossom into salvation. Just like the sower cannot see what is taking place in that seed as it takes in water and nutrition and begins to grow, we cannot see what the Holy Spirit is doing in the hearts and lives of those we share Christ with. But we can and should be obedient and remain faithful in sowing that seed and sharing Christ with others.

And as God is faithful to use those seeds of the gospel that we are obedient to sow, God causes growth in his kingdom. So, let's look at verses 30-34 where the final parable shows us **the growth of the kingdom**. 30 And he said, "With what can we compare the kingdom of God, or what parable shall we use for it? [31] It is like a grain of mustard seed, which, when sown on the ground, is the smallest of all the seeds on earth, [32] yet when it is sown it grows up and becomes larger than all the garden plants and puts out large branches, so that the birds of the air can make nests in its shade." [33] With many such parables he spoke the word to them, as they were able to hear it. [34] He did not speak to them without a parable, but privately to his own disciples he explained everything. This parable is connected to the last parable by the idea of the seed growing. Remember in the last parable the focus was on the farmer sowing seed, but then having no idea how the actual growth took place. That is where this parable is focused, except the illustration is different here because it is not focused on sowing and harvest, but on contrast of the tiny seed and the fully grown mustard plant. That mustard seed is almost microscopic, but the plant it produces can be more than 10 feet or 3 meters tall when it is fully grown. It is technically considered a shrub plant, but one that towers over other types of shrubbery. And like any other tree or large bush, this becomes a place where animals such as birds can take refuge. It becomes a source of shade where plants that can't take direct sunlight can thrive.

And what does this have to do with the kingdom of God? The kingdom of God at the time of Jesus was just in the seed stage. The 12 disciples that Jesus commissioned as Apostles to preach the gospel throughout the world would take the message of Jesus and spread it everywhere. The message they carried was that our Creator God sent his son, Jesus Christ to die for our sins and provide redemption for his human creatures who have failed to glorify him. That message changed the world, and as history unfolded churches continued to plant new churches and see new believers saved and baptized. Ultimately the trajectory of God's kingdom is continual growth until the kingdom of God is fully realized and fills every aspect of this world system. There are several views on

how this will happen. I won't go into all the details of these systems, but postmillenialism believes that history will have a trajectory leading towards God's reign and that ultimately the church will prevail and God reign will be fully realized as God uses his church on earth. There are many churches, especially in the United States that may not hold to postmillenialism, but are moving towards a view called theonomy that is a form of Christian nationalism that seems to view God's kingdom being extended through political action. It is getting fewer and fewer theologians who would believe this way, but there are some who say that the kingdom of God is fully heavenly and is spiritual in nature only and does not exist here on earth in any form until either the millenial kingdom or the eternal state. But here is the truth, as with most aspects of the Christian life and Biblical history, we live in a state of already, but not yet. The kingdom of God started advancing with Jesus, and has been growing as the church of Christ advances in every part of the world. But it will only be fully realized when Jesus returns and Philippians 2:10-11 is fulfilled that says, … at the name of Jesus every knee should bow, in heaven and on earth and under the earth, 11 and every tongue confess that Jesus Christ is Lord, to the glory of God the Father. Ultimately, like that Mustard plant that covers every area of the garden, God's kingdom will break through in all the fullness of His glory, and fill the earth with his presence and his kingdom will be physically established. That is the day that we work towards and look forward to. But we don't work towards that kingdom with political action or even social work to better society. We work towards it by doing what the sower did in the second parable…we sow the seeds of the gospel wherever God opens the door and watch Him at work increasing his kingdom. We are sent out as followers of Jesus as ambassadors or emissaries of a king and a kingdom to proclaim that there is a greater king and an ultimate salvation that is offered to everyone who will repent of their sin and follow Jesus Christ as their Lord and Savior. But the mission is urgent, because as 2Corinthians 4:4 says, In their case the god of this world has blinded the minds of the unbelievers, to keep them from seeing the light of the gospel of the glory of Christ, who is the image of God. As disciples of Jesus, we understand the mystery of the gospel that those around us are blind to. Notice that this passage ends with this statement in verse 34, He did not speak to them without a parable, but privately to his own disciples he explained everything. The disciples didn't keep that truth and that understanding of the gospel and the kingdom of God to themselves. They spent the rest of their lives sharing the good news that Jesus Christ died on a cross for our sin and rose again so we could be saved from our sin and given a new life, an eternal life in the kingdom of God. Are we sowing those seeds of the gospel to see the kingdom of God spread in our area of Yokohama and Kanagawa, in our nation of Japan, and around the world? Let's pray.